

確かな学力を育む授業力の向上

奈良市立都南中学校

本校では「学力向上実践研究」の研究指定を受け、初年度は以前から取り組んでいた「小中連携を中心とした取組」を深めることに力を注いだ。次年度はさらなる「学力向上」のため、校務分掌を見直して「教師力課」「生徒力課」を設置し、様々な提案を行い、「学び合う」ことを中心とした「新しい学びのスタイル」の取組を柱とした。今年度は昨年度の取組から見えてきた「認め合える・支え合える」ための「親和的な集団づくり」を加え、2本の柱とした。

(1) 取組の実際

<平成20年度> ○小中連携を中心とした取組

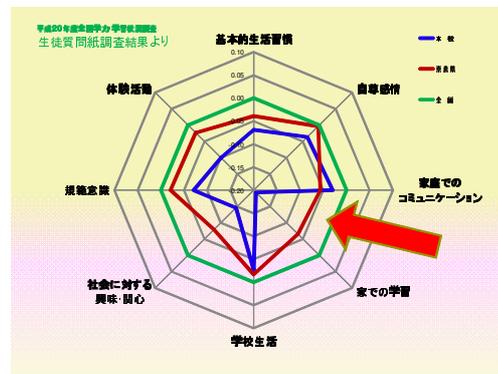
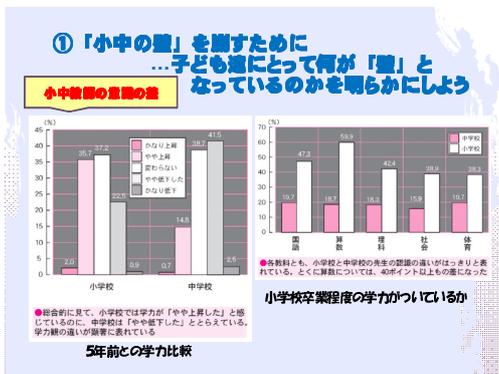
「校区学力向上委員会」(平成17年度～)を核とした取組の深化

「中1ギャップ」の解消と「9年間を見通したカリキュラム」の育成



校区小・中学校一斉に総合学力調査の実施・小中合同研修会・小中共通教材の検討

校区小・中学校公開授業・おはようスタディ(早朝学習)・少人数授業等



課題 …低学力傾向・家庭学習の弱さなどに大きな変化は見られない。さらに具体的に様々な提案をしていく部や課の設置が必要である。

<平成21年度> ○個に応じたきめ細かな指導法の確立
○確かな学力を育む授業力の向上

校務分掌の見直し…様々な提案をしていく新しい「課」の設置



「生徒力課」「教師力課」を設置→提案

学習の手引き…教科ごとの学習の仕方、家庭学習の仕方等

保護者に配布、学活で生徒へのレクチャー

宿題一覧表…一週間の宿題の量を調節(多い、少ないをなくす)

保護者も宿題が出ているか確認できる

確認テスト…単元ごとに基礎事項の定着度の確認

放課後学習会…確認テスト結果から基礎事項の未定着生徒への補充学習

家庭学習を充実させるには

②家で勉強する習慣をつける
宿題を毎日、一定量出そう → 一週間の予定表配付

日	1	2	3	4	5	6
科目	英語	英語	英語	英語	英語	英語
時間	18:00-19:00	18:00-19:00	18:00-19:00	18:00-19:00	18:00-19:00	18:00-19:00

「新しい学習スタイル」

- 座席の変更

先生から全員見える
…ではなく

常に多くの仲間の顔が見える

自分の発言を大切にもらおう
仲間の発言を大切に

「新しい学習スタイル」

- 「黒板を使った一斉授業」からの脱却
- 互いの顔が見えるコの字型の机の配置
- 「3人か4人のグループによる学習」

↓

- わからないところをどんでん聞く…教え合う
- 共同して難しい課題に挑戦する…ジャンプのある学習

新しい学習スタイル

互いの顔が見える「コ」の字型の机の配置

少人数のグループ学習の導入

共同して難しい課題に挑戦する…ジャンプのある学習



一斉授業からの脱却(「学び」からの逃避を防ぐ)

「習う」から「学び合い・教え合い」へ

生徒による授業評価

学期末に全教科の授業評価→クラスごとに集計→職員

月1回の研究授業、研究協議

学識者との連携(奈良教育大 粕谷准教授 奈良女子大 藤井准教授)

学びの約束...学級掲示

- 何が「わからない」のか気づきましょう。
- 「わからない」ときは、考えましょう。
- 「考え」でもわからないときには、「教えて」と言ひましょう。
- 「教えて」と言われたら「わかる」まで教えてあげましょう。
- 「教えて」と言うまで、教えるのはやめましょう。

新しい学びのスタイルに関するアンケート結果(3学期)

- 教室の雰囲気が良くなった!...70.2%(+6.2%)
- 勉強がわかりやすくなった!...66.2%(+4.2%)

肯定的意見
・授業中に質問をしたり、わからないところを教えてもらったりする時間があるので安心した。

否定的意見
・話しやすくなるので、私語が多くなる

生徒による授業評価 (平成21年度)

② 先生の話には集中して耳を傾けることができた。

③ 授業には積極的に参加し発言もできた。

課題…新しい学習スタイルに対して、教職員の共通理解の不足や保護者の不安の解消。「学び合う」ために必要な「学習規範」や「ソーシャルスキル」(「人と関わる知識と技能」)の不足。「認め合える・支え合える親和的な集団」づくり。

<平成22年度>

○「新しい学習スタイル」の徹底→「教える」プロから「学び」のプロへ

研究授業、研究協議、職員研修の重視

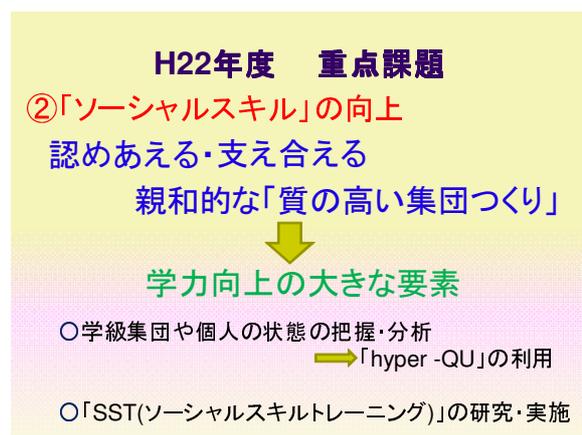
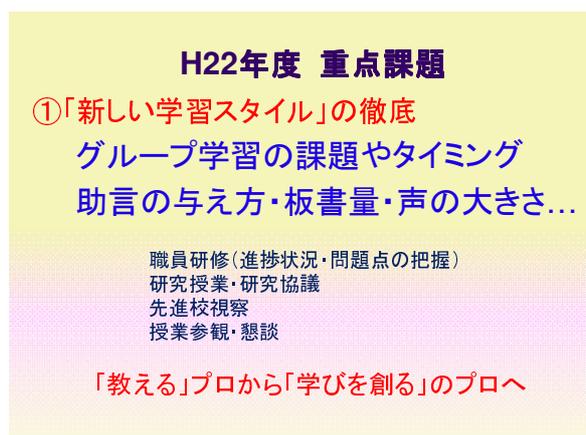
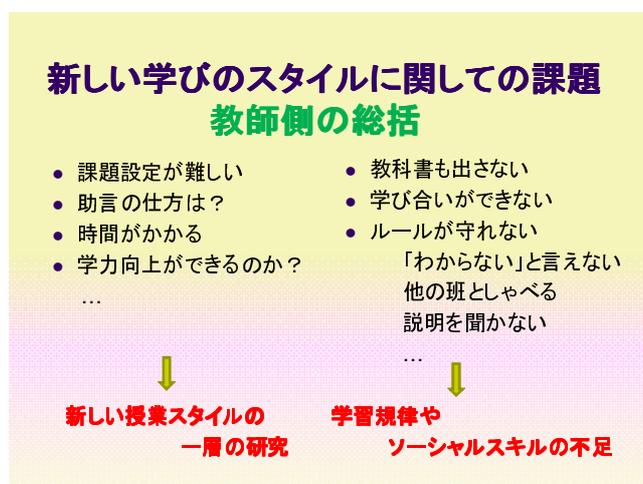
→新しい学習スタイルの進捗状況や問題点の把握

月1回の授業参観、懇談→保護者の理解、協力を得る

○認め合える・支え合える「親和的な集団づくり」

「hyper -QU」（個々の「学級生活満足度」や学級の状況把握）の活用

「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」の研究・実施



課題…グループ学習での課題設定や板書量・助言の与え方など細かな部分に目を向けられるようになったが、生徒の「学び合う」力が伸びていない。



「学習規範」や「ソーシャルスキル」（「人と関わる知識と技能」）の不足。

(2) 3年間の取組の成果と今後に向けて

成果

- 不登校生徒、学びから逃避する生徒の減少。
- 予習や宿題など家庭学習の取組の向上。
- 「全国学力・学習状況調査」、「県学力診断テスト」等の結果の向上。

取組みの成果

「不登校生徒」や
「学びから逃避する生徒」の減少

30日以上欠席の生徒
平成21年度 一学期末 22名
↓
平成22年度 一学期末 13名

新しい学びのスタイルに関するアンケート結果(3学期)

- 「教室の雰囲気良かった」・・・70.2%(+6.2%)
- 「勉強がわかりやすくなった」・・・66.2%(+4.2%)

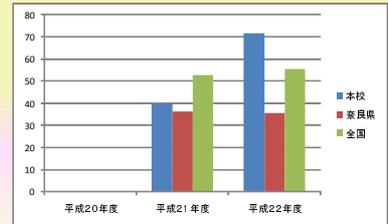
肯定的意見

・授業中に質問をしたり、わからないところを教えてもらったりする時間があるので安心した。

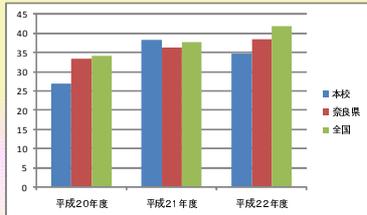
否定的意見

・話しやすくなるので、私語が多くなる

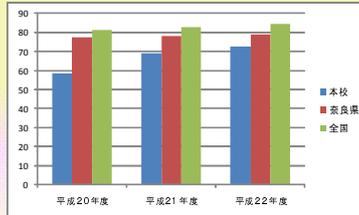
普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



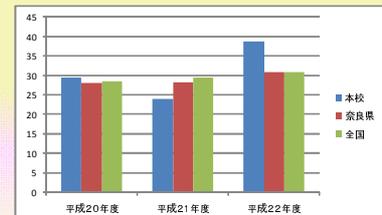
家で自分で計画を立てて勉強していますか。



家で学校の宿題はしていますか。



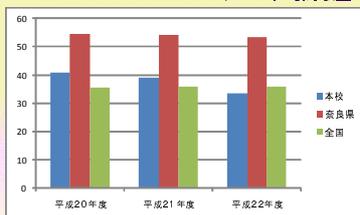
家で学校の授業の予習をしていますか。



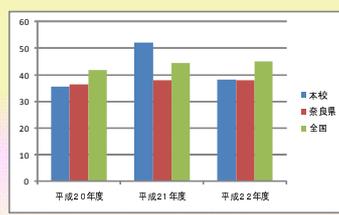
課題

- 保護者との協力の下、家庭学習のさらなる定着。
- 「ソーシャルスキル」の向上。
- 「新しい授業スタイル」の徹底。より一層の研究。
- 「親和的な集団づくり」「自尊感情の育成」
- 生徒会活動や係活動の充実。

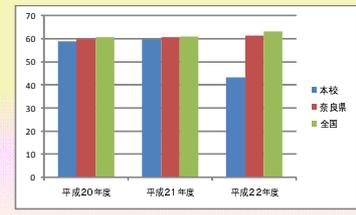
学校の授業時間以外に普段(月～金)、一日にどれくらいの時間勉強しますか。(2時間以上)



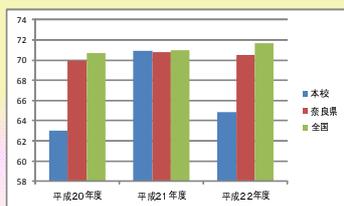
学校の規則を守っていますか。



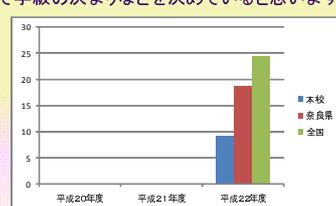
自分には良いところがありますか。



将来の夢や目標を持っていますか。



あなたの学級では、学級の友達同士で話し合っ
て学級の決まりなどを決めていると思いますか。



一人一人の学びを大切にした授業の創造

～学び合う・聴き合う関係を土台として～

奈良市立伏見中学校

生徒の課題を教員が共通認識し、その課題の克服と学力の向上を目指した。一斉授業の中に4人の学習班による学び合いを効果的に取り入れる授業を研究。授業研究・研究討議を年間のべ15回実施。生徒の課題に関する意識調査を定期的に行い、学力との関係进行分析・検証し、授業の改善に生かした。

(1) 取組の実際

① 研究方法 (図1参照)

ア. 研究推進委員会

メンバーは、校長、教頭、教務主任、研究主任、各学年2名の研究推進委員である。

イ. 年間5回の授業研究

各学年1クラスのみを残し、学習班による学び合いを取り入れた研究授業を行った後、学年ごとに研究協議を実施した。その間、部活動の巡回を学校支援地域本部事業の一環として保護者ボランティアに協力していただいた。

ウ. 年間3回の校内全体研修

各学年・教科の取組の報告やデータの分析を行い実践に活用した。授業研究、全体研修は奈良教育大学小柳和喜雄教授に御指導いただいた。

エ. 先進校の視察

東京大学大学院佐藤学教授が提唱する「学びの共同体」を実践している中学校や御池中学校の「読解科」の実践を視察した。佐藤学教授によると学び合いとは、“つまづいたり、困難に直面したりした生徒が「どうするの？」と援助を求め、他の生徒が応える関係”のことである。

オ. 質問紙「自分に関するアンケート」

以下に述べる五つの課題に関わる24の質問を設定し、それを「自分に関するアンケート」とした。回答方法は1を肯定的、2をやや肯定的、3をやや否定的、4を否定的とする4件法である。全校生徒を対象に5月と11月に実施し(最終年度は7月にも実施)、その結果の分析を行った。

② 課題の共有化と主題設定

全職員で生徒の課題を出し合った。それをKJ法により五つに分類した(写真1・2参照)。それが伏見中の五つの課題である(図2参照)。これらの五つの課題の克服と学力の向上を目指して、一斉授業の中に4人を基本とする学習班によ

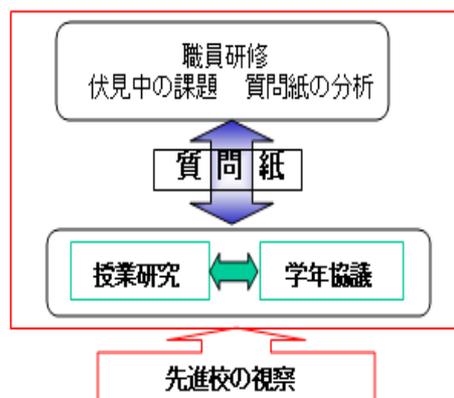


図1 本実践研究の構成

るグループ学習を取り入れた。この取組を通して、学び合い・聴き合う関係を作り出し、コミュニケーション力を高める等、課題の克服を図ると同時に、学ぶ意欲・学力の向上につなげようと、主題を「一人一人の学びを大切にした授業の創造～学び合う・聴き合う関係を土台として～」とした。

- 伏見中の5つの課題**
1. 自分に自信がもてない
 2. お互いに高めあう意識が低い
 3. 関わり・コミュニケーションが苦手
 4. 自尊感情
 5. 家庭学習・家庭生活

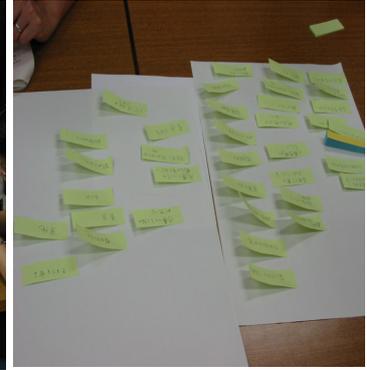


図 2

写真 1 職員研修の様子

写真 2 KJ法による分類

③ 新学習指導要領との関連

新学習指導要領の柱の一つである「思考力・判断力・表現力」を養うために、学習班で考える時間をとり、考える習慣を身に付け、自分の考えを広め・深めることをねらった。また、学習班の話合いやクラスの発表のほか、説明・討議・記録などの「言語活動」を取り入れた（図 3 参照）。

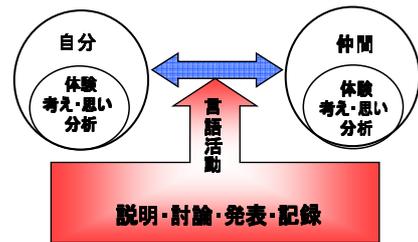


図 3

④ 伏見中の授業スタイル

「自分に関するアンケート」の結果から、五つの課題のそれぞれの相関関係を調べてみた。また、五つの課題の克服に取り組むことが学力の向上につながるのかを調べるために「自分に関するアンケート」と学力との関係について分析した。その結果、五つの課題とも学力の高い生徒（H群）の方がよいことが分かった（図 4 参照）。このことから、五つの課題の克服が学力の向上につながると思った。

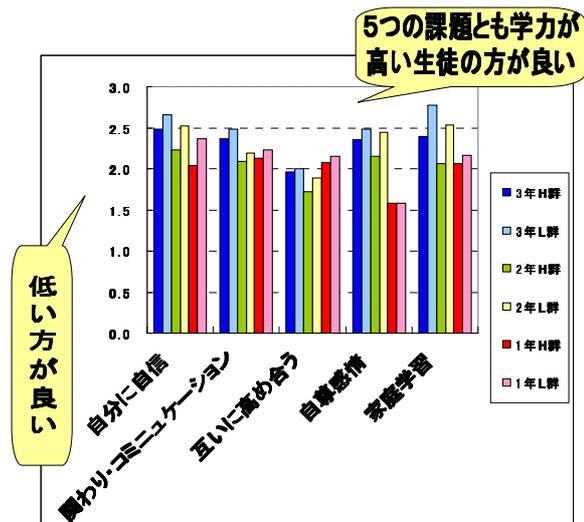


図 4 学力と五つの課題の関係

そこで、授業にグループ学習を導入し、学び合い・聴き合う関係を作り出すことが、五つの課題の克服と学力・学習意欲の向上につながると考え、伏見中の学力向上モデルとした（図 5・図 6 参照）。

さらに学び合いを効果的に進めるために、単元における学び合い設定の時期や、1時間の中の時間帯、学び合いのルール、教員の効果的な働きかけ、全教科での「課題の設定」などを研究し共有財産として蓄積してきた。

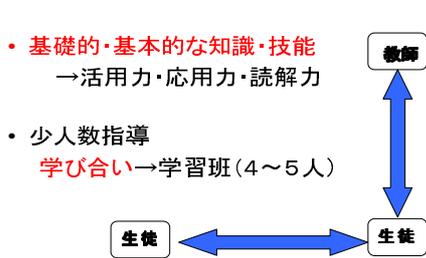


図5 伏見中の授業のスタイル

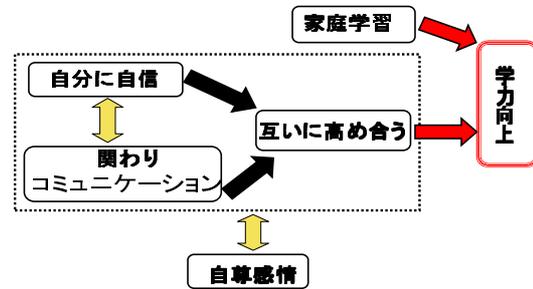


図6 伏見中の学力向上モデル

(2) 3年間の取組の成果と今後に向けて

① 成果

本校の取組は特別なものではなく、全教員で一歩ずつ前進してきたささやかなものである。しかしながら、3年間、全教科、できる範囲で学び合いのグループ学習を追究してきた結果、以下に示す成果があった。

ア. 生徒

研究授業後の生徒対象の「授業についてのアンケート」の「みんなで考え合ったり、意見を言い合ったりするのはすごく楽しかった。授業により一層集中できた。」の感想に代表されるように、グループ学習に対する肯定的な意見が圧倒的に多かった。とりわけ学力の低い生徒にその傾向は顕著であり学習への意欲喚起に結び付いていると考えられる。



写真2 学び合いの様子

イ. 教員

教員の「生徒たちの変化」に関する自由記述のアンケートでは、ほとんどが肯定的な変化をあげていた。主なものは「学びから逃げようとする一部の生徒をつなぎとめ、生徒同士の関係がより穏やかで柔らかなものに変容してきた」「研究授業や研究協議を通して、生徒理解がより多面的になった」「教科間のつながり・連携が深まった」などであった。

ウ. 学校評価

本研究は平成20年度から始まったが、過去3年間（平成19年度～平成21年度）の生徒及び保護者対象の学校評価アンケートは、ほとんどの項目で肯定値がアップした。中でも授業や教え方に関する数値は全て上昇した。とりわけ「教え方にいろいろな工夫をしている先生が多い」（生徒対象）は60%から77%と17ポイント、「子どもは授業が分かりやすいと言っている」（保護者対象）は45%から58%と13ポイント高くなった。

エ. 「自分に関するアンケート」

現2・3年生が昨年度からよくなっている項目及び現1年生が5月から顕著によくなっている項目は、関わり・コミュニケーションに関する項目であった。

また、今年度5月と7月を比較すると、全学年で5項目とも7月の方がよくなった（図7参照）。特に、自分に自信に関する項目と関わり・コミュニケーションに関する項目については、有意差があった。

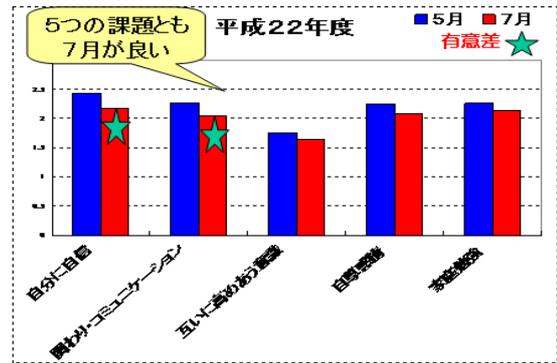


図7 五つの課題の変化

② 課題

さらに学年ごとに分析したところ、以下のような結果になった。これらの図は、各学年1学期の中間考査から期末考査の伸びと五つの課題との関係について示したものである。成績がよく伸びたものをHH群、少し伸びたものをHL群、少し下がったものをLH群、下がったものをLL群としている。五つの課題について、7月と5月を比べよくなっているものは「+」にそうでないものは「-」に表している。

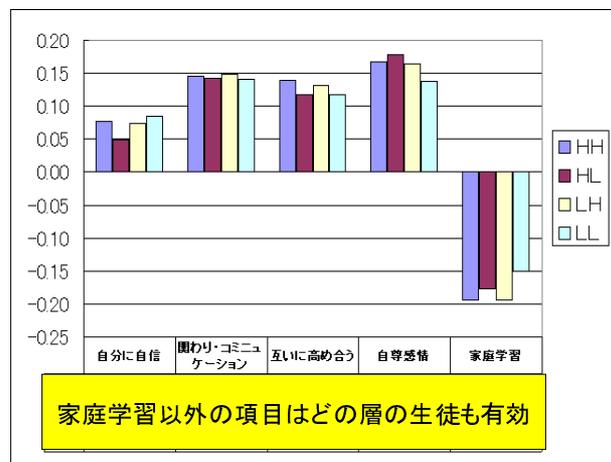


図8 第1学年

第1学年は、家庭学習に関する項目を除く4項目が、どの学力層の生徒にも有効であった（図8参照）。

第2学年は、自分に自信に関する項目やコミュニケーションに関する項目が全ての学力層の生徒に有効であった（図9参照）。

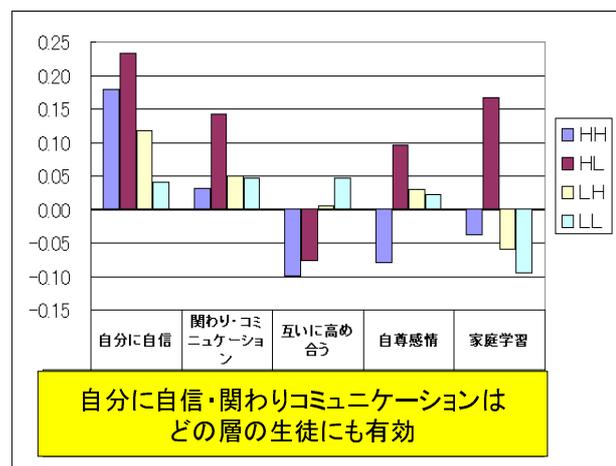


図9 第2学年

第3学年になると学力層によって捉え方が変わった（次のページの図10参照）。中間考査から期末考査へと学力が伸びた（HH群）にもかかわらず、5項目とも「-」になっている。これについては、進路を目の前にしてさらに自己目標を高くしているためであると考えられる。しかし、学力の低い生徒（LL群）は5項目全てが「+」になっている。これらのことから、学力の低い生徒には学び合いを取り入れたグル

ープ学習は有効であるといえる。一方、学力の高い生徒は物足りなさを感じ、より高い課題設定を求めていると考えられる。

以上のことから課題として、次の2点にまとめることができる。

- ①家庭学習の弱さの克服を保護者との連携のもと、一層推し進める。
- ②全生徒が意義を感じる適切なジャンプ（チャレンジ）課題を開発し、共有財産として蓄積していく。

今後は、これら2点の改善とさらなる学力向上を目指し、研修を積み実践をしていきたい。

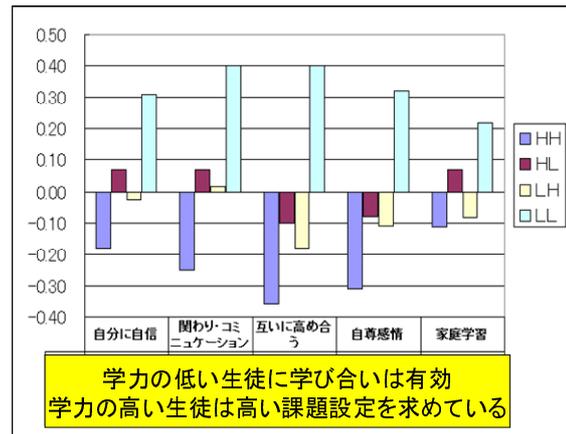


図 10 第 3 学年

基礎学力の定着と活用力の向上を目指した取組

～へき地・小規模校の特長を生かして～

曾爾村立曾爾中学校

本校は全校生徒 29 人(平成 22 年度)、山間へき地の小規模校である。概ね生徒は素直であるが「自分には、よいところがあると思いますか」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」等に課題があることが分かった(平成 21 年度全国学力・学習状況調査による)。また、特に数学 A(主に知識力)に課題が見られたので、基礎学力を定着させるために宿題や補習を課したり、コミュニケーション能力を向上させるために見聞や実感を伴うような体験を多くさせたりすることでその解決を図ろうと全校体制で取組を進めた。

さらなる授業時数の確保等に向け、平成 20 年度から二学期制を試行し、比較的自由度が高くなった 12 月に村内の国立曾爾青少年自然の家で、二泊三日の「全校学力向上合宿(通称 GUTS)」を実施している。

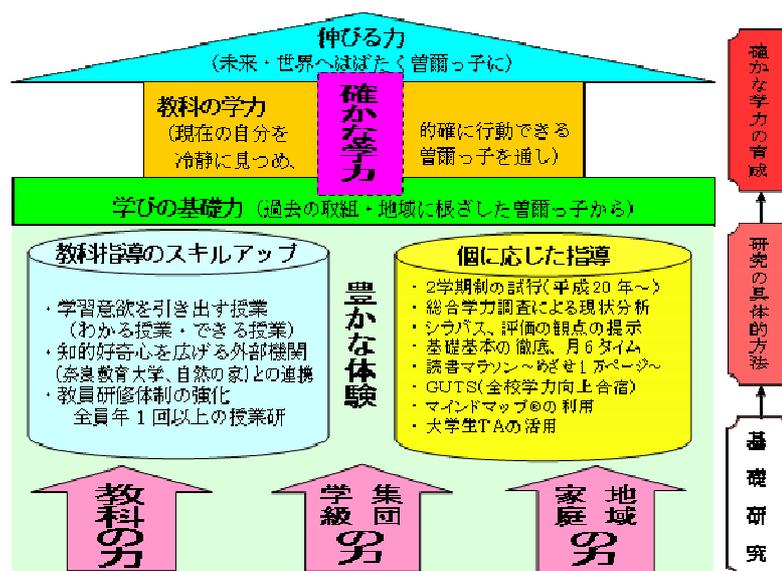
また、生徒・教員の知的好奇心を広げるため、平成 17 年度より奈良教育大学の「先導理数プロジェクト」(新世代を先導する理数科教員養成プログラム;その後「新理数」に発展)とのサマースクールやウィンタースクールにおける理科や数学の実験や実習を通し、大学生や大学教員との交流を続けている。

さらに、創造性や記憶力を高める手段として注目されはじめた「マインドマップ」を教育に活用するため「マインドマップ講演会」を実施(平成 21 年 7 月)し、授業での活用を進めている。

(1) 取組の実際

① 研究の目的

本校では、学力向上拠点形成事業(平成 17 年～19 年)や学力向上実践研究推進事業(平成 20 年～)などの文科省等の指定研究や県へき地教育研究大会(平成 18 年)などを通して、「学力向上」「キャリア教育」「ふるさと学習」を三本柱に据え、「ワンランクアップの学校目指して～曾爾中だからこぞできる教育、曾爾中にしかできない教育」を合言葉に様々な取組を行ってきた。



曾爾中学校学力向上構想図

②研究内容

ア 授業改善に向けた取組

- ・校内体制の整備（二学期制の試行）

さらなる授業時数増を目指し、二学期制を試行した(H21～22)。始業式・終業式を減らし、長期休業期間を弾力的に運用することにより、授業時間を平均 31 時間増やすことができた。

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	二学期制の 3 年間平均
学期制	三学期制	二学期制			
年間授業日数(全学年平均)	202 日	197 日	195 日	204 日	199 日
年間授業時数(全学年平均)	1043 時間	1043 時間	1041 時間	1087 時間	1057 時間
H19 年度と同日数に換算した授業時数	1043 時間	1069 時間	1078 時間	1076 時間	1074 時間
総授業時数の増減	±0 時間	+26 時間	+35 時間	+33 時間	+31 時間

- ・分かる授業を目指した職員研修の充実

非常勤講師を除く全教員が年 1 回研究授業を実施。国語・社会・数学・理科・音楽・美術・保健体育・英語の 8 教科で、県教育委員会から指導主事を招へいして指導をいただいた。

イ 奈良教育大学との連携

- ・サマースクール（8 月下旬の 4 日間）、ウィンタースクール（3 月初旬の 1 日）

数学や理科の実験・体験などを通して、より一層の学力向上を図る取組を計画的かつ継続的に実施している。第 3 回「サマースクール(H20)」から、石田・菊池先生の御協力で解剖実験を実施している。「ウシガエル(H20)」「スルメイカ(H21)」「マルアジ(H22)」と続き、毎回最後はから揚げやパスタにして「命」をおいしくいただき、素材の味を楽しむ生徒が多い。



午前中は大学生 TA も交え
学力向上支援

マルアジの解剖

- ・GUTS での TA(学習支援)協力、教育実習生の受入れ

奈教大新理数の学生が GUTS での学習支援や、理科の教育実習生(H20: 2 名、H21: 1 名)として来校。大学生との交流を楽しみにする生徒が多い。

ウ 学習習慣の定着に向けた取組

- ・「月 6 タイム」の実施

月曜日の 6 限目を自主学習の時間と設定。全校生が多目的室と図書室に集まり、宿題をする者や受験用問題集の質問をする者など、自主的・積極的に学習している。



月 6 タイム

- ・「問題データベース」の利用

学習進度や理解度に応じて Web ページから問題シートをダウンロードできる、東京書籍「問題データベース」を利用して、夏期・冬期休業中や GUTS で



問題データベースの利用

復習し、基礎学力の定着に努めた。(H21年度)

- ・「GUTS(全校学力向上合宿)」の実施(12月)…H20年度～《Gakuryoku Up Training in Soni の略》

目的「学力を徹底して鍛え上げ、家庭学習の習慣化を図り、集中力や自律心、コミュニケーション力の向上を目指す」



数学 with 大学生

国立曾爾青少年自然の家に教室を移し二泊三日の学習合宿を実施。奈教大の学生6人の協力も得、1日8時間の授業と早朝・夜の自主学習を通して、学習の習慣化や集中力アップを図った。また、野外合奏(静かな高原の音響効果を利用した合奏)・測量(地形図とメジャーによるお亀池の計測)・瞑想タイム(心を鎮め”無”になる)・音読破(「風の又三郎; H21/90分間」、「山椒大夫; H22/80分間」を全員で音読・読破する)・大学生による「私の勉強法」など、普段できないような取組にも挑戦した。



瞑想タイム



音読破「山椒大夫」



閉講式後、全員で…

第3回 GUTS～Gakuryoku Up Training in Soni～活動計画表《2010年度》

※時間割で、下線斜体字の授業は**体験服**です。

開始時刻 終了時刻	2010年12月16日(木)		2010年12月17日(金)		2010年12月18日(土)	
	活動計画	備考	活動計画	備考	活動計画	備考
5:30 S	中学生は8:00発の特別便に乗車する。(新弁天橋方面16人:スクールバス)(山粕方面 13人:スクールバス)		3年 5:30起床 (自主学習)		3年 5:30起床 (自主学習)	
6:00	※欠席連絡は、8:00までに学校へ		1・2年 6:30起床(整理・整頓) ◆2Fやすらぎ		1・2年 6:30起床(整理・整頓) ◆2Fやすらぎ	
6:30 S	菅爾中学校 TEL: 0745(94)2014		7:00清掃/7:15朝の集い ◆1Fロビー	日出 7:00	7:00清掃/7:15朝の集い ◆1Fロビー	日出 7:00
7:00	◆宿泊棟=1・2年、きのご機、3年 さかな棟		7:30朝食/自由時間		7:30朝食/荷物を持って教室へ	
7:30 S	★教室=1年 よろい、2年:かぶと、3年:びょうぶ		8:35 瞑想タイム ◆くろそ / 制服に着替え		8:35 瞑想タイム ◆くろそ / 制服に着替え	
8:00	入所式 ◆1Fロビー(レストラン前)/入室		(1年 2年 3年) 職員室		(1年 2年 3年)	
9:10	9:20～ (社会・英語・国語)	かめやま	1限目(英語・社会・数学)		1限目(国語・社会・英語)	
10:00	10:10 (英語・理科・数学)		2限目(数学・英語・社会)		2限目(数学・英語・国語)	
10:10	11:10 (数学・国語・英語)		3限目(理科・数学・英語)		3限目(社会・理科・数学)	
11:00	12:10～ 持参弁当(戸外orびょうぶ)		昼食(食堂)/自由時間		昼食(食堂)/自由時間	
12:00	(45分間) /自由時間					
13:00	4限目(国語・社会・理科)		4限目(音読破(国語))		4限目(英語・国語・社会)	
13:50	5限目(美術・数学・社会)		5限目(森鷗外「山椒大夫」～ ◆びょうぶ)		5限目(学活・数学・理科)	教室で着替え
14:00	6限目(美術)		6限目(保健体育)		6限目(生徒会球技大会) ◆プレイホール	
15:00	◆野外館内		◆プレイホール		/制服に着替え	
16:00	自由時間(私服に着替え)		自由時間(私服に着替え)		16:15退所式◆集いの広場★集合写真	
16:50 S	夕べの集い ◆1Fロビー	日入 16:48	夕べの集い ◆1Fロビー	日入 16:48	16:30の特別便で一斉下校	
17:00	夕食/自由時間		夕食/自由時間		※自然の家バス1台、弁天～山粕へ	
17:50	7限目「天体の学習」(理科)野外観望を含む ◆びょうぶ ※防寒着の着用		7限目(学活「私の勉強法」from大学生) ◆びょうぶ		《備考》	
18:00	8限目「自主学習」 ◆さかな棟やすらぎの部屋		8限目(音楽)		※夜食有り(パン2つ)。	
19:00	1・2年:1Fやすらぎ、3年:2Fやすらぎ		◆エコロジー		※睡眠時間:1・2年=8:00,3年=6:30～7:30	
19:50	入浴 自由時間		入浴 自由時間		※大学生TA(ティーチング・アシスタント)	
20:00					16日:1人	
21:00	9限目「自主学習」 ◆さかな棟やすらぎの部屋		9限目「自主学習」 ◆さかな棟やすらぎの部屋		17日:2人	
21:50	1・2年:1Fやすらぎ、3年:2Fやすらぎ		1・2年:1Fやすらぎ、3年:2Fやすらぎ		18日:6人	
22:00	就寝準備:部屋長会議:1日の反省	3年希望者は最終	就寝準備:部屋長会議:1日の反省	3年希望者は最終		
22:30	就寝(ねまきor体験服):就寝23:00		就寝(ねまきor体験服):就寝23:00			

「GUTSを終えて」～生徒の感想より～

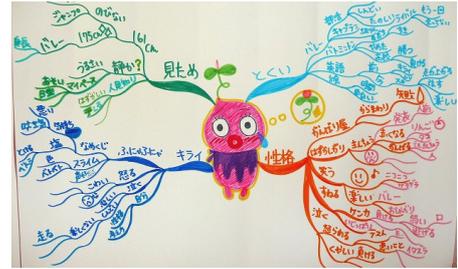
- ・こんなに集中して勉強したのは初めてだ。(1年)
- ・寒かったけど久しぶりに改めてゆっくり星を見て「本当にキレイやなあ」と見とれていました。(1年)
- ・3日間テレビもゲームも無い生活はいやだなと思ったけど思ったより全部楽しかった。(2年)
- ・瞑想タイムは足が痛かったけど、気分が落ち着いた。(2年)
- ・一人で勉強していると途中であきらめてしまい、長続きしないけれど、みんなと一緒に勉強すると3日間がアツという間に過ぎてしまい、分らなかった所も教えてもらってできるようになった。(3年)
- ・音読破は、一番しんどかったけれど、これをやったらこれからは少々しんどいことでもがんばって乗り越えていけると思った。(3年)

エ 「マインドマップ講演会」の実施

マインドマップとは、英国のトニー・ブザン氏が考案した放射思考のツールで、創造性や記憶力を高める有効な手段として注目されている。未整理の情報でも、このマップなら思い付くままに書き始めることができ、意見の整理や提示にも向いている。

「ブザン教育協会」を通し、平成 21 年 7 月 15 日には、内山雅人氏の講演会が実現した。研究発表会当日(平成 22 年 11 月 9 日)には、国語・英語・数学のマインドマップを使った授業を公開した。

マインドマップは、生徒にとっての表現・思考・記憶の支援ツールとして、教員にとっての教授・学習状況分析の支援ツールとして効果があった。



マインドマップで「自分」を表現(生徒作品)



マインドマップによる板書例「無セキツイ動物の分類」



学んだことを自分で表現して理解を確かめるマインドマップの利用



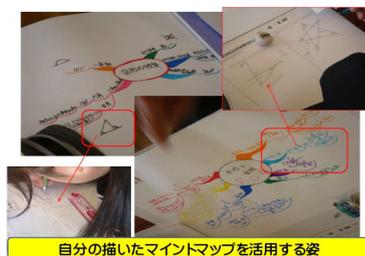
マインドマップをどのように自分の問題に活かしていくかを指導



「松と杉」のイメージをゲームタッチで表現



主語と動詞という最初の指示から関係を描く生徒



自分の描いたマインドマップを活用する姿



内容を読み取り、関係構造を視覚化

(2) 3年間の取組の成果と今後の課題に向けて

平成21年4月に実施した全国学力・学習状況調査で課題が見られた「数学A」を、平成22年1月に再度3年生に受験させると、平均正答率が、9.7ポイント上昇した。4月の正答率を基に分けた上位層・中位層・下位層による上達度を比較すると、特に下位層が+17%の伸びとなった。下位層を中心とした基礎学力の定着が進み、正答率3割弱のグループを5割弱まで押し上げ、全体の正答率も上昇したと見ている。また、本校では平成17年度から、ベネッセ総合学力調査などを利用して現状分析を行い、様々な取組を通して、確かな学力を育てようとしてきた。その結果、活用力の向上に一定の成果を上げている(全国学力・学習状況調査)。しかし、学年集団による大きな偏差や、知識力の定着に課題が残る。また、固定的な人間関係を解消するため視野を広げる取組や、互いの弱点を補いながら生徒に主体的に企画・活動させるような取組をさらに増やす必要があると考えている。

